

# 事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

## 平成30年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2019年3月31日

社会福祉法人森友会  
うれしい森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	②	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	④	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	うれしい森保育園			
事業所連絡先	〒	187-0011		
	所在地	東京都小平市鈴木町二丁目147番地の10		
	Tel	042-439-5509		
事業所代表者氏名	伊東 寛			
契約日	2018年	10月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2018年	10月	25日	
利用者調査結果報告日	2018年	12月	1日	
自己評価の調査票配布日	2018年	10月	24日	
自己評価結果報告日	2018年	12月	1日	
訪問調査日	2018年	12月	7日	
評価合議日	2018年	12月	7日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回収率向上にも努めた。</li> <li>・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。</li> </ul>			

<p>1</p>	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の調和的発達を促す⇒全ての子どもが、自分の流れで園生活を楽しむ。</li> <li>・基本的な生活習慣（食事・排泄・睡眠・着脱衣・清潔・挨拶など）の育成を進める⇒全ての子どもが、無理なく自立の道を歩む。</li> <li>・集団への参加と自主協調の態度を養う⇒全ての子どもが、異年齢集団との関わりによって協力・協働の喜びを知る。</li> <li>・正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心を育てる⇒全ての子どもが、自然・社会に積極的に関わる。</li> <li>・子どもらしい表現によって生きる力の基礎を培う⇒全ての子どもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。</li> </ul>
<p>2</p>	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として世の中の規範を守り、人には優しく常識的な行動をとるとともに、保育士として子ども達に温かい心を持って丁寧に対応してもらいたい。</li> <li>・主任、リーダー等の上位職にある人に関しては立場を自覚して、リーダーシップを持って各フロアの職員を率先して引っ張って行ってほしい。経験の浅い職員は少しでも先輩の職員に近づこうとする意識を持ち、分からない事は質問し、自己研鑽に励んでもらいたい。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>法人理念である「全ての子どもの最善の利益のために」を常に考えて子ども達と接するとともに、子ども達の自主性・自発性を促す事ができる生活環境、遊びの環境、行事を行ってほしい。</p> <p>職員は「先生」と呼ばれる事に対する自覚と責任を持ち、普段からの服装・態度・発言等を常に意識した行動を取り、他者との協調性を図り、保護者に信頼される人間関係の構築を行ってほしい。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯69(在籍児童数79)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ、郵送または郵送・事業所内回収の併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数  
利用者家族総数(世帯)  
共通評価項目による調査対象者数  
共通評価項目による調査の有効回答者数  
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

79
69
69
65
94.2

## 利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」32.3%・「満足」40.0%の計72.3%で、設問別では「外部相談窓口の周知」の1問のみ50%を下回ったが、「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「急な残業等への配慮」「整理整頓・清潔」など全17問中8問では80～90%台の高い支持を得ている。  
自由意見では「異年齢保育で年齢にこだわらず交流でき、朝の支度や行事の手伝いなどの親の負担も少なく助かっている」「駅近で預かり時間も長く、夕飯の提供も助かっており、異年齢児保育で子どもたち同士が兄弟のように仲がよく、子どものやりたいことをさせ、自主性に任せているのはよいと思う。表現活動も他園にないユニークな活動で気に入っており、男性保育士がいる点もよい」「子どもがその日取り組みたいことを尊重し、無理に周りや大人(保育者)のルールに合わせることなく柔軟に対応してくれ、のびのびと過ごすことができている」「保育に携わる先生が皆優しく、若い先生が多いので子どもが親しみやすい」などの声が寄せられている。  
さらなる向上を望む意見としては日常の保育や保護者の就労・負担への配慮、子どもの様子の報告・説明や職員体制に関することなどが見られた。

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	59	5	1	0
<p>実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が90.8%、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が1.5%となっている。 自由意見は2件で、「異年齢保育で年下の子とも関わるため、自然とお世話をしたりおもちゃを譲ったり、かわいがることができるようになりうれしく思っている」のほか、子どもの心身の発達に役立つ活動の充実について、さらなる検討を望む意見があった。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	57	6	2	0
<p>「はい」が87.7%、「どちらともいえない」が9.2%、「いいえ」が3.1%となっている。 自由意見は3件で、「さまざまな経験をさせてもらっている」「保育園でいろいろな遊びを覚えてきたり、新しい分野に興味を持つ機会を与えてもらったりしており、家では教えられないことも多いため助かっている」のほか、高年齢の子どもたちの活動について、さらなる検討を望む声が見られた。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	56	7	1	1
<p>「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が10.9%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は2件で、「個別の状況に合わせた食事を提供してくれるのですごくありがたい」のほか、離乳食・移行食のメニューについて、さらなる検討を望む声が見られた。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	45	15	3	2
「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が23.8%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見は5件で、「園庭は狭いが、近くの公園によく連れて行ってもらっているため、花や虫・どんぐりなどの自然に触れる機会がある」「園庭での戸外遊びはたくさんできていると思う」のほか、戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	57	3	0	5
「はい」が95.0%、「どちらともいえない」が5.0%となっている。 自由意見には土曜保育の際の受付の融通性について、さらなる配慮を望む内容が1件寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	42	15	7	1
「はい」が65.6%、「どちらともいえない」が23.4%、「いいえ」が10.9%となっている。 自由意見は9件で、保育中の安全管理、設備面、感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	44	16	5	0
「はい」が67.7%、「どちらともいえない」が24.6%、「いいえ」が7.7%となっている。 自由意見は9件で、「土曜日に設定してもらっているので参加しやすい」のほか、行事日程の連絡、行事の日程等における各家庭の負担や就労等への配慮に対して、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	41	23	1	0
「はい」が63.1%、「どちらともいえない」が35.4%、「いいえ」が1.5%となっている。 自由意見は9件で、「主任がしっかりされている印象があり安心できる」「どの先生も子どもの様子をお迎え時に教えてくれる」などのほか、職員による相談のしやすさ、父親と母親に対する伝え方の違い、コミュニケーション機会の設定などについて、さらなる配慮を望む内容が見られた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	60	4	1	0
「はい」が92.3%、「どちらともいえない」が6.2%、「いいえ」が1.5%となっている。 自由意見は4件で、各室内の清掃や衛生管理などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	51	8	5	1
「はい」が79.7%、「どちらともいえない」が12.5%、「いいえ」が7.8%となっている。 自由意見は9件で、「皆さん丁寧に話してくれる」「ほぼとてもよい感じの方が多い」のほか、職員の接遇マナーや服装・身だしなみ、子どもの呼び方等について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	51	7	5	2
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が7.9%となっている。  自由意見は7件で、「熱が出た場合などはすぐに連絡をもらえ、次の日の仕事の予定を早めに調整し、対応することができるため助かっている」「すぐに帰宅できない時も柔軟に対応してくれている」のほか、ケガや体調急変等の把握・対応、ケガ・体調急変時の保護者への連絡などについて、さらなる向上を望む声があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	33	19	5	8
<p>「はい」が57.9%、「どちらともいえない」が33.3%、「いいえ」が8.8%となっている。  自由意見は7件で、「その時の状況を教えてくれるため信頼している」などのほか、子ども同士のトラブル等の把握や子ども一人ひとりへの配慮・目配り、子ども間のトラブル発生時の保護者への情報提供などについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	53	10	1	1
<p>「はい」が82.8%、「どちらともいえない」が15.6%、「いいえ」が1.6%となっている。  自由意見は2件で、子どもの気持ちを大切にされた対応、先生による対応の差について、さらなる配慮を望む内容があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	49	7	1	8
<p>「はい」が86.0%、「どちらともいえない」が12.3%、「いいえ」が1.8%となっている。  自由意見には記入がなかった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	39	16	7	3
<p>「はい」が62.9%、「どちらともいえない」が25.8%、「いいえ」が11.3%となっている。  自由意見は6件で、子どもの成長発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者への報告・伝達、ものの置き方等の個別具体的な説明などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	39	16	2	8
<p>「はい」が68.4%、「どちらともいえない」が28.1%、「いいえ」が3.5%となっている。  自由意見は9件で、「一度心配な点を伝えた時、先生はきちんと話を聞いてくれ、気をつけて見ていくと言ってくれた」「行った直後は対応してもらえる」「話す機会を設けてくれた」のほか、不満・要望等への傾聴姿勢や対応などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	16	9	8	32
<p>「はい」が48.5%、「どちらともいえない」が27.3%、「いいえ」が24.2%となっている。  自由意見には記入がなかった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	保育や子どもの育ちにおいて法人共通に目指すものを、保護者や職員に発信している 「すべての子どもの最善の利益のために」を法人共通の保育の基本理念とし、「心身の調和的発達」をはじめとする五つの保育目標、具体的な実践としての「異年齢保育」などの保育の各特色を掲げている。これらについて、保護者には入園時のプレゼンテーションや映像も交えた説明のほか、保護者会や園便り等での保育や子どもの育ちに寄せた話題などを通じて理解獲得を図っている。また職員には入職時の研修のほか、年度開始時の資料を交えた園長からの発信、日常の実務や会議、法人内・園内の各種研修などから、継続的に理解と実践を促している。 風通しがよく、各職員が仕事を楽しみながら成長してゆける組織づくりを目指している 経営層の役割・責任・権限は、園の運営規程に記載されるほか、組織図に各職位・職種の業務内容を付記する形の職務分掌表に可視化されている。園長は「楽しくなかったら発展はない」を方針とし、子どもに楽しさを提供する職場として、職員各人も楽しく仕事に取り組めることを大切に、現場の意向の尊重と支援に努め、最終責任を負うことがリーダーの務めであると考えている。また組織の中核を担う若手・中堅職員が経験を積みながら成長することや、風通しのよい組織づくりに向け、経営層も含めた各職員のコミュニケーション力の伸長にも注力している。 各種案件を職員間で話し合い、決定事項等を関係者に周知させる仕組みが整えられている 園内の各種案件は、出席可能な常勤者による毎月2回の職員会議と、経営層・各リーダー及び非常勤者により概ね毎月行うパート会議で検討され、相互に情報や決定事項等を伝達する仕組みとしている。また保育や行事の企画・反省などの現場の案件について、各階のフロア会議で稟議や提案などを話し合い、必要に応じ職員会議に上げることとなっている。欠席者には記録の確認や個別の伝達、上記の各会議などで必要な情報を伝達し、保護者には案件の内容や発生のタイミングに応じ、書面の配付・掲示や保護者会、連絡通信アプリ等によって周知させている。	

2			カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリ-1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価		標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		5. 事業所の経営状況を把握・検討している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
実践的な計画策定に取り組んでいる		3/5
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>さまざまな観点から事業環境の把握に取り組み、情報や課題を収集している</p> <p>保護者の意向は、日々の会話・面談、連絡通信アプリによる行事前の日程検討や行事後の感想収集、保護者会や園内に設置した意見箱などから把握し、要望を踏まえた改善も適宜なされている。職員の声は上記の各会議や経営層との面談などから収集し、設備や保育、園運営などに随時反映させている。また行政や各種団体の会議・研修や発信物、市役所担当者との情報交換、見学者・在園世帯との会話などから、地域ニーズや自治体・業界の動向を把握している。</p> <p>毎年度の事業計画書と予算を作成し、園の運営の指針としている</p> <p>毎年度の事業計画書に、園の概要と基本方針、保育と保護者・地域支援、職員育成など各分野の重点目標を定めている。また年間の予算は前年度実績を踏まえ、人件費や修繕費などの必要な増減を盛り込んで作成し、事業計画書とともに理事会で承認を得ている。また園長が収支・利用状況などの園の経営状況の管理を行い、毎月の系列園園長会で法人各園との共有を行っている。中・長期的な当面の課題として、根幹とする「営める保育」のさらなる充実のほか、若手を中心とした職員の育成や組織内の連携や同僚性の向上などが意識されている。</p> <p>各活動に関する計画作成・実行や、園長による組織の目標の発信がなされている</p> <p>保育の各指導計画や行事の計画書へのねらい・活動内容等の記載、主要行事の準備工程・作業等の明確化と進捗管理など、現場の実務では活動の規模や内容に応じた計画作成・実行がなされている。また事業報告書に対応する形で、年度の事業報告が作成されており、上記の重点目標の各分野について、年度の取組内容や成果を記載している。今年度開始時には園長が「職場目標及び遵守事項」を作成し、職員間・フロア間や常勤・非常勤、新人・既存者など、それぞれに連携と共通理解に努め、互いを認めつつ責任を果たし合うことを各職員に発信している。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
<b>評価項目2</b> 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
<b>職員に求める規範・倫理について、さまざまな機会を設けて啓発に取り組んでいる</b> 大切に「誉める保育」の実践の前提となる子ども一人ひとりへの肯定的なまなざしなどについて、主任が折々に職員への啓発を行うほか、法人の新人研修では守秘義務を含む社会人としての服務規律を中心に、公金受託施設の職員として守るべき心得が伝えられている。また前述の「職場目標及び遵守事項」に加え、社会人・組織人及び保育者としての両面から、各職員が日頃の認識や態度・行動を「自己評価シート」によって振り返るほか、法人の「服務心得マニュアル」にも職員に求める各種規範が定められるなど、組織的な倫理意識向上が図られている。 <b>苦情解決制度や児童虐待への対応など、利用者の権利擁護の体制を整えている</b> 苦情解決制度を整備し、1階廊下に情報を掲示するとともに、意見箱も設置して匿名性に配慮した意見申し出に配慮している。保護者には入園時にこれらに関する説明を行っているが、利用者調査の関連する質問ではさらなる周知の必要性も示唆されている。児童虐待については関連のマニュアルを常備するほか、必要の際の通報・連携先機関を定め、園長が市の要保護児童対策地域協議会に出席し、資料配付などによって得た情報を組織内に伝えている。また職員の子どもへの言動について、上記の「職場目標及び～」の確認等も交え、組織全体に自戒を促している。 <b>情報の発信や市内の関係機関との連携など、地域に開かれた園であるべく取り組んでいる</b> ホームページや小平市の各種媒体、地域向けの掲示板を通じた園の各種広報、近隣の公民館などでの採用広告の掲示など、情報発信に取り組むほか、直近の実績はないが、ボランティア等の受け入れのための法人共有のマニュアルや誓約書様式が整備されている。また市の保育所園長会や保育所・幼稚園・小学校の連携会議、要保護児童対策地域協議会など、市内の保育・教育機関や福祉関係者との連携にも関わっている。地域への施設機能の還元は見学者への相談対応程度にとどまっており、今後企画の検討や実施体制・防犯面などの課題解決に取り組む意向である。		

カテゴリー4	
4	リスクマネジメント
サブカテゴリー1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>4/5</b>	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	
評点(○○○○●)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている
○非該当	
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている
○非該当	
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している
○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる
○非該当	
サブカテゴリー2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	
評点(○○○○)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている
○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している
○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている
○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している
○非該当	
カテゴリー4の講評	
各種事故や災害・侵入、情報流出など、重視する各種リスクへの対策を行っている SIDSを含む保育中の各種事故、災害・侵入や情報流出といった優先度の高い各種リスクについて、子どもの睡眠時の呼吸・体勢等の確認、外部の専門資源を活用したアレルギーショック対応や心肺蘇生等の研修のほか、毎月の防災訓練実施や全職員からの入退職時の機密保持誓約書取得など、対策に努めている。不審者対策については園内への侵入と戸外での遭遇に加え、連れ去りの阻止や不審な電話への対応など、年6回の訓練の中で、警察署の訓練立ち合いも交えて多様なケースへの対応を確認し、保護者にも市内での事案発生時のつど情報を提供している。 災害対策や保育中の危険抑制など、実効性のあるリスク対策の実施に努めている 毎月の防災訓練では、早・遅番時間帯や水遊び中の発災、予告なしの訓練開始など、実際に想定した実施に努めるほか、保護者との子どもの引き渡し手順等の確認、消防署による子どもの「煙ハウス」・起震車体験なども設け、BCPは今後法人内で検討し、策定する予定としている。保育中のケガ・ヒヤリハットは発生時のつど原因・対策の検討と所定の様式への記録を行い、その参照による組織内での共有を図るほか、クラウド上の共有フォルダ内で随時伝えられる系列他園の事例についても、園長が各職員に確認を促すなどして注意喚起を行っている。 各種情報の利用と管理について、職員への啓発や保護者への説明がなされている 「職員の心得マニュアル」中に書類・データの園外帯出禁止や保護者との会話時の配慮など、機密保持に係る職員の心得を定めるほか、法人の「個人情報管理規程」「文書取扱規則」に情報の取り扱いや開示等に係る諸規定を記載し、ホームページにも保育計画類の供覧について記している。また各PCのパスワード設定や書棚への施錠など、設備面でも情報漏洩の防止に配慮している。保護者には保育提供・園運営における各種利用目的を入園時に説明し、書面による同意確認を行っており、ボランティア等には活動開始前に留意事項を説明することとなっている。	

5			カテゴリー5
5			職員と組織の能力向上
			サブカテゴリー1(5-1)
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	8/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(●●)
評価	標準項目		
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇●●)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
組織力の向上に取り組んでいる		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
<p><b>職員の採用や各人と園の状況を踏まえた配属・配置など、人材の確保と活用に努めている</b></p> <p>職員の採用は常勤・非常勤とも法人の統轄のもとで行うほか、園単位でも園の掲示板や近隣の公民館等での募集広告の掲示、養成校との連携による実習受け入れからの継続採用などの取組を行っている。書類と系列園の経営層複数名による面接をもとに採用者を選考し、今年度は法人共通の面接時の評価表が策定されている。職員の配属や系列園間の異動は法人が決定し、園内での配置は本人の意向と経験・適性や期待する成長・役割、現場の意見などを踏まえ、園長が決定している。職員のキャリアパスについては、法人の人事委員会において検討が進められている。</p> <p><b>法人内外の多様な研鑽機会を活用し、各人の職位や職種に応じた能力向上を支援している</b></p> <p>都の「キャリアアップ研修」など、各自治体・団体等による研修に職員を派遣し、組織内で受講後の報告書・資料の供覧や会議での報告による成果の共有を図っている。さらに保育の軸とする「誉める保育」について、他法人との合同の内部研鑽が年間を通じて設けられ、外部講師を活用した事例検討や園長・主任向けの階層別研鑽など、法人主催の各種研修も行われている。また園全体の研修計画に各研修を受講すべき職位・職種を明記するほか、「自己評価シート」による個別の振り返りを実施し、経営層が面談を通じて各人と評価を共有する仕組みを設けている。</p> <p><b>各職員の意欲や組織の活力と同僚性を高めるための、さまざまな仕組みが設けられている</b></p> <p>各人の成長や貢献を賃金設定や役職登用等の参考とし、意欲・帰属意識向上の一助とするとともに、その決定経緯などを系列園園長間で共有し、公正性確保に配慮している。また法人・園での懇親機会の設定などによる組織の同僚性向上のほか、乳がん等の検診費用の負担や確定給付年金・資格取得助成金の各制度をはじめ、法人独自の福利厚生 of 仕組みも設けられている。日々の各フロアの会議を中心に、子ども理解や保育・行事の企画・反省など、直近の現場の課題検討による職員間の気づきや提案の共有を図るなど、組織としてのチーム力向上も図られている。</p>		

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>風通しのよい組織づくりを継続的な園の重点課題とし、乳児・幼児の各フロア間、常勤・非常勤及び既存・新人の各職員間で、それぞれ緊密に連携と協力を行える風土の形成に注力している。</p> <p>法人が事業拡大中ということもあり、開園時の組織の構成として、法人での在職歴の短い職員も少なくない状態であったことから、組織全体で法人の掲げる保育への理解を深めるとともに、日々の実務においては職員が相互に認識や情報を共有し、協力し合える体制の構築が求められた。またその中で主任及び各フロアリーダーがそれぞれの役割を自覚し、現場でそれを発揮することも重要となった。</p> <p>具体的な取組として、フロアリーダーの交代と新規リーダー間の検討によるフロア間の職員異動などを行い、人員配置の最適化を図るとともに、各フロア及び全体の会議に加え、パート会議を設けて主任・各リーダーが非常勤職員とも時間を取って話し合い、保育や子どもに関する情報・認識を共有できるようにした。また法人内の各種研鑽機会や外部の研修への積極的な参加を促し、保育や子どもの発達などのほか、内部コミュニケーションや後輩指導といったマネジメント面など、在職経験や職位に応じた資質向上が図られるようにした。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>日々の会議や経営層と各人との面談、園長による事業報告作成などが取組の成果検証の場となった。各リーダーを中心としたフロアごとのチーム力の発揮が見られ、パート会議での主任・各リーダーとの意思疎通の促進など、所期の目的は一定の達成をみたと考えている。今年度は各フロア・職員の状況を踏まえ、フロア間の担当の入れ替えを適宜行うほか、実務者間の連携や認識・情報共有がより促進されるよう、パート会議には経営層に代わり中堅リーダー層が参加する形態とした。またフロア単位の担当リーダーに加え、各フロアに対して客観的に助言や提案を行える立場として、両フロアに関わる「フリー保育士」職を新設するほか、前年度は必ずしも機能しなかった分野別リーダー・職務分野別担当職員の各役職についても、今年度は自覚と責任を持って職責を果たすよう求め、その旨を年度開始時に園長が作成・配付した「職場目標及び遵守事項」にも記載している。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

別掲の 카테고리1にて既述のとおり、園長は「楽しくなかったら発展はない」——子どもに楽しさを提供する職場であるからこそ、職員自身がいかに関わり合い仕事に取り組めるかが重要であると考えており、今後の新規入職や異動・退職等による組織構成の変動や、結婚・出産など各職員のライフステージの変化も見すえ、できる限り負担が少なく、また長時間労働のない職場づくりを重要課題と考えている。29年度はそのための先行的な取組として、事業計画中の「事業重点目標」の一つに「業務の効率化」を挙げ、

- ・それまで全クラス・全フロア分を配付することを原則としていた各種保護者向け書類の作成・配付について、必要に応じフロア単位の配付のみとするともに、書類自体も簡素化を図った。
- ・保護者との各種連絡や登降園時処理等におけるアプリの活用、延長保育料等の自動払い込みサービスの活用など、ICT導入などによる省力化を図るとともに、夕方以降に行っていた職員会議を日中後に実施することとし、特に家族のいる職員などが家庭生活に支障をできるだけ来さずに働くことができるようにした。

などの改善を実施した。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上記「評価項目1」同様、日々の会議や経営層と各人との面談、園長による事業報告作成などが取組の成果検証の場となった。保護者向け書類の作成・配付に係る負担軽減については、そのことによる保護者からの苦情等は寄せられておらず、理解は得られているものと考えている。登降園管理等の電子化などの事務面の各種システムの変更についても同様であり、今回の利用者調査における関連する質問(問5・保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか)でも、有効回答者の95%が「はい」と回答している。また職員会議の実施時間の変更については、全体的な労働時間量の縮減につなげられている。今年度も取組を継続し、事業計画にも記載するとともに、評価項目1にて既述のフリー保育士を中心に、各フロアの職員の出退勤の時間をより細やかに把握し、在園時間が長い傾向にある職員には理由を確認したり、必要な支援を行うなどの仕組みを設けている。また法人内でも、残業時間の処理等に関する系列園共通の基準・ルールの検討が進められている。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の実態があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>パンフレットに園の保育の方針や特色などを詳細に掲載し、見学者等に配付している</p> <p>A4両面カラー版のパンフレットを準備しており、見学者等に配付している。保育理念や方針のほか、子どもが自主・自発的に園で生活できること、一人ひとりの個性の尊重や自己肯定感を育む保育などの説明が記載されるとともに、写真を活用してその具体的な保育の手法でもある異年齢・グループ保育やコーナー、表現・造形遊び、食育などの場面を詳しく紹介している。また持ち物や年間行事、体調不良の対応など利用者からの質問がよく寄せられる項目についても掲載し、よりわかりやすいよう配慮がなされている。</p> <p>各種の媒体を通じて、園の保育の詳細な情報を地域の方々に広く情報提供している</p> <p>市の私立保育園協会が制作した保育所案内冊子は市内各園や市役所窓口で配布されており、当園を含む各園の情報が掲載されており、所在地・連絡先や定員・職員構成、開所時間や園舎の構造など、園の基本的な情報のほか、異年齢保育や人的・物的両面の環境の配慮、0・1歳児及び2歳以上児の一日の生活の流れ、表現遊び・造形遊びなどの園の保育の特色が、写真とともに紹介されている。同様に園のホームページに保育の特色や方針などを掲載するほか、市のホームページにも園の概要が示されるなど、各種の媒体を通じて広く情報が公開されている。</p> <p>施設の見学によって園での子どもの姿や活動を見てもらい、理解を深めている</p> <p>見学は事前予約を基本として保護者の希望等に応じて受け入れており、10時頃から1日3家庭を限度としてグループでの対応を行っている。施設内を回りながら、異年齢・コーナーなどの保育の手法、子ども一人ひとりのリズムに合わせた保育、チーム保育等の保育の特色を説明しながら、子どもの姿や子ども同士の関わりなど、実際の保育の様子を見てもらったうえで、より理解が深められるようにしている。また適宜パンフレットを活用しながら、持ち物や準備などの説明と質疑応答を行い、入園後の具体的なイメージを持てるよう配慮している。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6 / 6
2 サービスの開始・終了時の対応			
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
<b>サブカテゴリー2の講評</b>			
<p><b>入園・利用にあたっての重要事項を説明し、書面によって同意確認を行っている</b></p> <p>入園内定者には入園説明会と園見学、その後の面談を実施している。入園説明会では「入園のしおり」をもとにプレゼンテーション形式で説明の補足を行い、写真等を用いて内容が伝わりやすいよう配慮している。また保育の方針や特色などのほか、園のルールや苦情解決、緊急時の対応、食事に関する事項を伝えたり、感染症等の健康管理面についても説明している。各項目を説明したのちに質疑応答を行ったり、個別に相談に乗るなどして疑問点がないようにしており、その後に書面によって重要事項説明の同意を確認している。</p> <p><b>子どもの成育歴や健康・発達の状況を把握し、組織内で情報の共有化を図っている</b></p> <p>面談では保護者が記入した「個人調査票」や「健康調査票」、「食事状況確認書」の内容を確認しながら、保護者から子どもの家庭での成育歴や食事・排せつ・睡眠、予防接種や病歴・体質、園への要望などを詳細に聴き取っている。またアレルギーや保健的な個別の配慮が必要な場合は専門職の者が同席して詳細を確認し、その後の支援に役立てている。これらの情報はファイリングされ、各自で確認するとともに、一覧表にして特記事項等を会議等で情報共有をしている。</p> <p><b>利用開始直後の親子の不安・負担の軽減と、卒園後の関係継続に配慮している</b></p> <p>「慣らし保育」は保護者と相談のうえで実施の有無や期間を決めており、子どもの状況等に合わせて少しずつ保育時間を延ばしてゆき、環境変化に伴う不安軽減に配慮している。特に0歳児ではSIDSのリスクも伝え、保護者に理解が得られるようにしている。子どもたちに寄り添ったり、スキンシップを図るほか、保護者にその日の様子を丁寧に伝え、園と家庭と連携しながら無理なく進められるようにしている。利用終了後には卒園アルバムの配付時、運動会や夏祭りの行事の機会に関係継続を行っている。</p>			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>12/12</b>
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3		評点(〇〇)
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4		評点(〇〇)
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p><b>子どもや家庭の状況を定期的に更新し記録している</b></p> <p>入園時や年度当初に更新した子ども・家庭の状況は、定期的に記録している。発達記録は、2歳児までは毎月、3歳児は2か月に1回、その後は3か月に1回更新しており、年齢・月齢に応じた発達の主な現れをチェックするとともに、参考となる事項を記述する形で記録している。連絡帳や日々のやり取りのほか、個人面談を行って家庭での様子を確認するとともに、保護者の意向の把握に努めている。個人面談の記録も、個人別の児童票に添付され、確認ができるようになっている。</p> <p><b>全体的な計画をもとに保育の計画を策定し、評価反省を行っている</b></p> <p>全体的な計画は事業の目的や保育理念・保育方針・保育目標のほか、年齢別の養護と教育の内容、小学校との連携、食育・災害への備え、改訂保育指針を踏まえた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等の各項目について定めており、これをもとに年齢別の月間・週間のより実践的な指導計画が策定されている。前月の子どもの姿を踏まえ、養護・教育について内容と環境構成のほか、予想される子どもの姿、保育者の援助について定め、実践後には評価反省を行って次期へつなげる仕組みとなっている。</p> <p><b>子ども一人ひとりの状況を職員間で共有し、保護者に保育内容の説明を行っている</b></p> <p>0～2歳児までは、個別の月間指導計画を作成し、発達に応じた援助に努めている。子どもの特徴的な姿を記載するとともに、今後の配慮や援助についてが記述されている。3歳以上児についても必要に応じて立案し、支援の向上につなげる仕組みとなっている。これらの計画や子どもの姿は月案会議・昼会で話し合い、共有している。保護者への保育内容の説明は入園時のほか、毎月のクラス便りや行事後に発行するフロア便り・保護者会・個人面談など、年間を通じて行っている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5/5
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>個人情報の保護に努め、羞恥心の芽生えへの配慮に取り組んでいる</b></p> <p>入園時に「個人情報に関するアンケート」を実施し、同意を得て園にて保管し、それ以外の情報を外部とやり取りしなくてはならない状況となった場合には、保護者に確認したうえで、そのつど同意を得ることとなっている。また、子どもの羞恥心に配慮した保育の実践として、着替えは上下を一度行って全裸にはならないように伝えるほか、排せつの援助においては視線を遮って行い、トイレに誘う際には一人ひとりへの対応を細やかに、そして子どもがおむつを脱いだまま待つことのないよう、できる限り個別で行うこととしている。</p> <p><b>子ども一人ひとりの欲求や意思を尊重した配慮に努めている</b></p> <p>子どもがやることをできたことの表面上でなく、その意思や過程などを見つめて子どもと関わりながら適切な対応ができるようにしている。子どもの情緒の面として、どの活動にも出たくないという気持ちであっても、無理やり参加させるのではなく、その子の気持ちを聴いてそれに寄り添った対応をするほか、食事の時間についても一定期間の時間の中で子どもがお腹が空いた時に食べられるように工夫し、それぞれのお腹の空き具合や生活リズムに応じるほか、睡眠の際には状況によって適宜対応するなどの一人ひとりの配慮に努めている。</p> <p><b>誉められることから自己肯定感を味わえるようにしたり、虐待等の対応に備えている</b></p> <p>子どもへの言葉かけではその子の良さを「誉める」ことをしたり、スキンシップを図りながらそれを共有できるような関わりに努めている。子どもの作品を素敵に飾るなど、認められ、誉められるという体験を経て、自己肯定感が得られるような関わりに努めている。虐待防止や育児困難家庭に関連する研修に参加し、報告書の閲覧によって共有するほか、市内の園長会で出た情報を保育者に伝えるなどして意識啓発に努めている。また虐待が発生した場合には関係機関との連携体制を整えている。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p><b>保育や運営に必要な業務内容・手順等を職員に伝え、新人のフォローアップも行っている</b> 職員への仕事分担やシフトの取り方、勤務に関するルール、書類作成と提出期限、保育で大切にすることを書面にまとめており、非常勤の方も含めて全職員に配付し、主任から会議にて伝えている。保育にあたっては子どもに対する姿勢や声のかけ方など、職員の所作や言動など一人ひとりの子どもを尊重できるようにしたり、子どもたちの身近な模倣対象として自らの所作を意識できるよう、各自に促している。新人職員では社会人・保育者としての基本となる事項を列挙し、できたことをスタンプカード形式で可視化し、フォローできるようにしている。</p> <p><b>法人・市内との連携や知見を活かし、園内での改善やさらなる向上に反映させている</b> 法人内の保育・看護・栄養士などの専門職、及び各委員会が法人内の意見交換やマニュアル等の見直しを行うなどしている。また主任会・栄養士会・看護師会などの市内の連携を図り、そこから得られた情報を園運営に活かせるようにしている。「誉める保育」の研修を受けて会議をする中で保育実践に採り入れるほか、主任会での意見交換などから、自園の環境構成や保育へと反映させている。園内においては「コミュニケーションノート」「フロアノート」を通じ、直近の周知が必要な事項や変更点等を伝え、現場での業務手順等の確認を促している。</p> <p><b>安全・衛生面の強化や見直しを図り、職員への啓発や意識向上を促している</b> 職員のリスク意識を高める取組として、看護師からヒヤリハットの提出促進を促すことで、少しずつその意識が高まるとともに、保育の話し合いや振り返りにもつながっている。また看護師会の検討を経て、外科・内科ノートのサイズを変更し、回収の頻度も見直すことで、もれなく、かつより細やかな把握ができるように仕組みを見直し、職員間での安全への意識共有に役立っている。また全職員が3年に1度、消防署の救急訓練を受講することになっており、園内では時季によって嘔吐処理や救急救命の訓練を適宜行い、現場での適切な対応に備えている。</p>			

## Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>家庭との対話や保育士間の情報共有などを通じて、子どもの姿を把握・記録している</p> <p>送迎時の保護者との対話や連絡帳の内容・個人面談を通じて、家庭での子どもの様子や排せつ・食事等の取組状況などを把握し、発達記録を定期的に行っている。保護者からの情報や保育士間の情報共有で把握した、子どもの興味・傾向を踏まえて玩具の種類を変えるほか、身体的な育ちだけでなく、家庭環境の変化等によって子どもの情緒面が不安定になる時にも、心の状態を踏まえて遊びの内容や関わりを変えるようにしている。市の巡回指導員が定期的に来園しており、特に配慮が必要な子どもへの対応に関する助言を得ている。</p> <p>子どもが主体的に過ごせるよう、人的・物的な環境を整えている</p> <p>子どもが主体的に時間を過ごすことを大切に、人的な関わりや環境構成の工夫に努めている。子どもの興味・関心の方向を見極め、玩具の量や人気によってスペースを調節することにより、自由な活動を支えられるようにしている。子ども同士のトラブルに対しては、言葉によるコミュニケーション力の発達具合やその場の様子に応じて、見守りや仲立ちをしながらできる限り子どもたち自身で解決する力を養えるように関わっている。トラブルが多い場合、配慮事項等を職員間で共有して、子どもの気持ちに寄り添うことができるようにしている。</p> <p>異年齢児の関わりの中で、互いを受け入れることを学んでいる</p> <p>異年齢保育では、園庭で泣いている子どもを見つけ声をかけたり、靴が履けない子の手伝いをする中でしたり、してもらおうといったことが生じ、見て学ぶ機会が日常的に行われている。誉める保育の実践から、気持ちを受けとめ認める大人の姿をまねて、年上児が自発的に他の子どもを誉める姿も見られている。文化の多様性に触れる機会として、昔遊びができる施設に散歩に出かけて初めての経験をしたり、園でも季節を感じる制作等を通じて伝統的な文化に触れる機会を設けている。その他、就学に向けて小学校見学にも出かけている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p><b>登園時に子どもの様子を把握して記録し、降園時には保護者に様子を伝えている</b>  登園時には、昨日から今朝までの体調や機嫌など、子どもの状態を保護者から口頭で聴き取るほか、ケガや普段と異なる様子がないか視診を行っている。視診や保護者から伝え受けた内容は「受け渡し表」に記入し、職員間で共有することとなっている。降園時に口頭でその日の様子を伝える際には、一日の全体的な活動に加え、できる限り一人ひとりのエピソードを伝えるように心がけ、掲示物でも活動報告を行っている。また勤務シフトの関係上、担当外の職員が対応する時でも、「受け渡し表」を活用して伝え漏れの防止に努めている。</p> <p><b>身辺自立に向け、心身の状況を把握し、意欲を高められるような関わりに努めている</b>  身辺自立に向け、発達状況・意欲を踏まえ個々のペースやリズムを把握して援助している。自分のものが視覚的にわかりやすく、取り出しやすくするように、荷物をしまうカゴを配置するなどの環境面の配慮に加え、食事の摂取量や排せつの状況を記録するほか、子どもの自発的な行いを見かけたら目を合わせて「誉める」など人的な配慮にも注力している。大人も子どもも互いを認め合う雰囲気づくりに努め、子どもたちが誉められること、また誉められているところを目にすることで、安心を得ながら意欲を高めて生活できるように取り組んでいる。</p> <p><b>休息には個々の心身の状況を配慮して対応している</b>  登園時に子どもの状況を保護者から聴き取って必要に応じた援助を心がけており、休息についてもリズムや体調に合わせて対応している。午前中に眠たくなる子にも横になるスペースを用意するなど、できる限り個別に対応している。休息の考え方として、基本的には家庭での生活リズムを踏まえながら、本人の意向や個々の対応を大切にしている。本人の言葉だけで判断することなく、本人が眠さを感じている様子を逃さないよう努めており、2歳児など体力的に配慮が必要な子どもたち場合には午睡への声かけを行っている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>子どもたちが発達に応じ、思い思いに遊び込める環境を整えている</b>                  子どもが自ら関心を寄せたものに自由に取り組めるよう、環境構成に工夫を凝らしている。室内は遊びごとにコーナーが設けてあり、人気や玩具の量などによって広さを調節して、遊び込めるようにしている。また複数の職員で子どもたちの遊びを援助しているため、大人の見守りのもとで園舎内・園庭のどこへでも自由に行くことが可能となっている。訪問調査当日も、室内遊びを楽しんだ後、自分で身支度を整え、保育士とともに園庭に出ていく子どもの姿が確認できており、園庭では異年齢の子どもたちが自由に楽しむ姿が見られている。</p> <p><b>大人でなくてはできない提案に努め、本人の意思を尊重した援助を心がけている</b>                  子どもたちには自由が認められており、それぞれの関心や楽しみを見つけて活動している。子どもの意思を最大限に尊重するうえで、子どもが好きなものだけに取り組むことによって経験の幅が狭くならないよう、少し複雑なルールのある遊びや制作における道具の使い方・表現技法など、大人でなくてはできない提案もするよう心がけている。外部講師によるオペレッタも、表現する楽しみを味わう経験することを目的として行われている。また集団活動に気持ちが乗らない場合にはその意思を尊重し、本人の意欲の高まりを待ちながら援助している。</p> <p><b>散歩を通じ自然や季節への関心が高まり、皆で気づきを共有する喜びを感じている</b>                  散歩は子どもの歩ける距離を考慮しながら子どもたちと対話して行き先を決め、安全性も考慮して少人数で出かけている。花を見たり木の実を拾ったりしながら自然物への興味を広げるとともに、外気や風の変化から季節の移ろいを知る機会となっている。散歩でも「誉める保育」の実践に取り組んでおり、少人数で出かけることで、保育者が子どもたちのつぶやきや気づきに共感できるようにするとともに、保育者とのやり取りから子どもが自然物や季節への関心をふくらませ、皆で歩いて気づきを共有する喜びを感じられるような「誉める」関わりに努めている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>子どもたちの自発性・自主性を尊重した日々の生活や遊びから行事に発展させている</b></p> <p>行事のために敢えて何か練習を課すような活動は行わないことが園の基本的な考え方であり、子どもたちの自発性・自主性を尊重した日々の生活や遊びを行事に発展させている。例えば「フェスティバル(発表会)」では、日々取り組んできたことや子どもの興味が発展していることを演目としており、外部講師を招いて表現する楽しみを経験するために行っているオペレッタを披露するほか、日々行っている保育士が子どもと目を合わせ名前を呼ぶ「お名前呼び」の風景を再現したり、フラフープや絵の発表など自分の好きなことを発表したりしている。</p> <p><b>運動会では、日々の子どもの育ちを踏まえた競技が行われている</b></p> <p>「もりんびっく(運動会)」でも、競技は日頃の遊びを踏まえている。今年度4・5歳児が取り組んだリレーでは、その過程として担当する保育士は子どもたちの様子を観察し、リレーという競技が成立するために必要な要素が日々の子どもの姿から見受けられるかという考察を行っている。順番を守る・終わったら次の約束を守る・競うことを皆で楽しむなど、ルールの中で楽しむ姿を確認してから導入している。規範を守る心や協力する気持ちが、自由な活動を保障する人的な関わりによって育まれていることが感じられるエピソードである。</p> <p><b>お泊まり会は子どもたちが協力し、自信をつける機会となっている</b></p> <p>年長児が「お泊まり会」を経験している。昨年は系列園の年長児との交流も兼ねて他園の子どもたちと合同で行ったが、今年度は当園のみで行い、内容の充実を図っている。ランタンを作ったり、買い物に出かけてカレーを作るほか、お風呂に一緒に入るなど楽しい一日を過ごしている。保護者のもとを離れて、友だちとルールを守りながら過ごす一日は、子どもたちが自信をつける機会となっている。遠足は子どもたちの対話から行き先を決めており、今年度は保育士が挙げた複数の候補地の提案の中から、2グループに分かれて2か所に出かけている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもが安全に過ごせるよう、人的・物的両面で環境を整えている</p> <p>保育時間が長くなる子どもの心の負担軽減や事故防止に配慮し、さまざまな取組を行っている。18時以降では全学年が同じ場所で過ごし、誤飲の危険を防ぐため、提供する玩具は大きさを考慮している。また一日の終わりに向けて注意が散漫になり、身体に疲れを覚える時間帯であることから、子どもの身体的な接触による事故を未然に防ぐため、職員が互いの立ち位置や視野・視点を把握するよう努めている。また不安になってしまう子どもへの対応として、スキンシップを図りながら過ごすなど、情緒への配慮を心がけている。</p> <p>保育時間が長くなる子どもたちが楽しく過ごせるように配慮している</p> <p>夕刻以降を保育園で過ごす子どもたちの気持ちの切り替えにはできる限り応えられるよう心がけており、おやつ時間の後16時半までは園庭で過ごすことができるよう人員配置を工夫している。また、休息が取れるよう柔軟に対応している。そのほか普段は常設していない教具教材を提供し、長時間保育の中での特別感や楽しみを見出せるようにしている。夕食提供の場合には必ず保育士がそばにつくようにしており、会話を楽しみながら安心して食べられるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>子どもの主体性を尊重した食事の提供に努めている</b></p> <p>生活リズムが違う中で、子ども一人ひとりの空腹を感じるタイミングは異なるため、全員一斉に「いただきます」をするのではなく、「お腹が空いた」「友だちと食べたい」という気持ちにも寄り添い、昼食の時間帯は11時から13時までであれば、好きな時に食べられる環境を整えている。自分が食べたいと思ったら遊びを終わらせ、手を洗って着席して保育士から「どうぞ」と呼ばれるのを待つとともに、自分の食べられる量を保育士と対話しながらよそい、席へ戻って食事を始めている。このように食事の場面においても、子どもの主体性の尊重に努めている。</p> <p><b>子どもが好んで食べられるよう、話し合いを通じて献立等の工夫をしている</b></p> <p>献立は昼とおやつバランスにも配慮し、昼が麺類の時には、おやつはおにぎりや食パンなどを出すようにしており、1食の食塩量を1.9グラムに抑え、薄味を基本としている。また子どもが嫌いな野菜などは、ハム・ツナ・コーンなどの好きなものと和えたり、汁物に入れるなど、食べたいと思う気持ちを促せるよう工夫している。また主菜・副菜ともに和食の献立にすると残食が多いため、副菜については味付けのバリエーションを増やしている。献立の見直しや検討は、園長と調理スタッフで行う給食会議、委託会社との献立会議で行われている。</p> <p><b>栽培や調理などの食育に取り組み、アレルギーへの対応では誤食防止策を講じている</b></p> <p>食育の一環として、トウモロコシ・ブルーベリーの収穫や育てた夏野菜を使ったピザ作り、「お泊まり会」でのカレー作りなど、栽培活動や調理体験の機会を設けている。訪問調査当日にはおはぎ作りが行われており、説明を聴き、蒸かしたもち米を潰してきな粉を混ぜるなどしながら、素材がどんなものか、におい・色・形を観察し調理中の変化を楽しみ、気づきやおいしさを伝え合う姿など、日々の活動の一端をうかがわせる場面が見られた。食物アレルギーへの対応では、複数名での確認や着座の位置・提供方法の工夫など、誤食防止策を講じている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康や安全への関心を持てるよう工夫を凝らし、体験から学べるようにしている</p> <p>身体の図鑑や玩具を準備して子どもたちが遊び等を通じて人体や身体の機能などにも興味を持ったりするほか、看護師から時季に応じて手洗い・歯磨きの指導を行ったり、室内にはポスターを掲示するなどして日常的な取組から自然と身につくようにしている。また歯磨きについては可視化し、子どもが楽しみながら意欲的に取り組めるような工夫も行っている。火災・地震・防犯の訓練を実施しており、避難する大切さや身を守ることを知ったり、消防署の協力を得て起震車や煙ハウスの体験ができるなど、実体験を通じて学べるようにしている。</p> <p>専門家や保護者との連携を図り、子どもの健康状態の把握や管理を行っている</p> <p>日々の子どもの健康状態は毎朝、家庭との連携や職員による視診で確認するとともに、日中の体調変化やケガ等の発生を含めて看護師が全体の把握をしたうえで必要な配慮・支援を行っている。また嘱託医による0歳児毎月・1歳以上児年2回の内科健診、各年齢年2回の歯科検診があり、子どもの身体等の発達を定期的に確認・記録するほか、これらの機会を活かし、看護師を中心として嘱託医との相談体制を整えている。保護者とは「けんこうのきろく」を毎月やり取りし、身長・体重の計測や健診・検診の結果、予防接種や既往症の状況を双方で共有している。</p> <p>保護者に家庭や子どもの健康管理に役立つ、さまざまな保健の情報を知らせている</p> <p>入園時には「入園のしおり」に基づいて与薬対応の方針のほか、感染症やSIDSに関する各種情報を説明するとともに、毎月の保健便りにて生活習慣の留意点や安全対策などの家庭で役に立つ内容や時期ごとで生じる感染症の情報を提供している。また玄関では看護師から随時のお知らせをするほか、感染症の発生時には発生人数を速やかに知らせ、保護者への注意喚起を行っている。なお、連絡アプリを通じて保健便りや感染症等の情報を配信するほか、その日の発熱状況がリアルタイムで確認できるようにしている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者が安心して園に子どもを預けられるよう、積極的な声かけや情報提供に努めている</b>                  園での生活において子どもが安心していれば、保護者も同じように安心できると考えており、子どもの様子を保護者に伝えられるよう、担任のみならず、主任や看護師など担任以外の者からも積極的に保護者に声をかけてコミュニケーションを図るほか、園での様子が伝わるよう、場面ごとの具体的な様子やエピソードがわかるような表現を心がけている。また保護者の様子の変化があれば話しかけて悩み相談や子どもへの配慮につなげられるよう努めており、日頃の活動の様子や子どもの姿を見たい時にはいつでも受け入れられるようにしている。</p> <p><b>育児と就労等の両立に向け、保護者の負担軽減や行事日程の設定にも配慮している</b>                  保護者の事情による個別配慮を行うとともに、急な延長保育や補食の対応にも可能な範囲で行うほか、オムツの持ち帰りがないようにしたり、準備物も可能な限り毎日の持ち物や常備するものを減らすようにし、朝の受け入れ時の準備がないようにするなど、育児と就労等の両立に向けた保護者負担の軽減にも配慮している。保護者の参加行事は土曜日を中心として行っており、年間行事予定を知らせ、見直しを持って予定を検討できるようにするほか、行事後にはアンケートを募り、次回の参考としている。</p> <p><b>子どもの発達や育児等についての共有や、保護者同士の交流促進を図っている</b>                  保護者会(年2回)では各フロアで入園・進級後の子どもの様子を写真や動画などで伝えたり、事前に保護者から募ったテーマをもとに保護者同士での意見交換ができるようにするなど、子どもの発達や育児等についての共有や、保護者同士の交流促進を図っている。また「ふれあい保育(保育参観)」ではトウモロコシ狩りに親子で一緒に出かけたり、夏にはブルーベリーの収穫体験を行っており、親子や保護者同士の交流を深める機会となるほか、例年、保護者向けの子育てに関する講演会をしたり、その後に子どもの活動の様子を見てもらう機会を設けている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人への参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>身近な事象や地域の人との関わりを持ち、食に関連する取組の充実にもつながっている</b></p> <p>近隣の緑道を歩きながら、季節の変化を感じたり、近隣の方々との挨拶や会話を交わすほか、駅に電車を見に行ったり、小学校の近くの公園では校舎やその中で活動している小学生の姿を見て刺激を受けるなどしている。直売所の前を通ると季節ごとの野菜を眺めたり、近隣のスーパーに出かけてクッキングで使う食材を探して実際の買い物の体験を行ったり、誕生日にはその子が隣の花屋に出かけて花を買うなど、社会との関わりも持たれている。さらに親子でのトウモロコシやブルーベリーの収穫体験が行われている。</p> <p><b>行事を通じた卒園児との交流や幼児のいつもと違った遠足体験が行われている</b></p> <p>夏祭りや運動会などには卒園児も招いてともに楽しむ機会があるほか、今年度は4・5歳児のグループで2日間に分け、遠足として井の頭公園や東村山の遊べるコーナーに出かけたり、3・4歳児のピクニック遠足での異年齢での交流、5歳児の春の遠足など、いつもと違った楽しさを味わえるようにしている。担当間で近隣の系列園との交流を模索したり、消防署や郵便局といった地域資源を活用した取組などの構想を広げているところであり、子どもの体験や視野を広げる取組の充実につなげたいと考えている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている
タイトル①	身辺自立の援助に際して心身の状況を把握し、誉めることで子どもの意欲を高めている	
内容①	身辺自立の援助に際し、身体的な発達を見極めるだけでなく家庭での様子を聴き取り、園での子どもの姿を複数の職員で多面的にとらえることによって、一人ひとりの意欲や情緒的な育ちの状況を踏まえながら行っている。また援助に際して行う「誉める」保育士の関わりが、自発的な意欲を高め合う好循環をもたらしている。何かしようとした気持ちやできるようになった姿を目を合わせて誉めるだけでなく、すでに身につけた美しい所作についても誉めることがさらなる動機づけにつながり、認め合う雰囲気の中にいる周囲の子どもたちの意欲をも高めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル②	園内で発生した事例を、実効性のある改善や組織的なリスクセンス向上に活かしている	
内容②	保育中のケガについて、各室内にカメラが設置され、日常の様子が常時録画されている設備上の利点を活かし、発生後には原因・対策検討とその組織内での共有に加え、事例の重要性に応じ、発生時の映像を活用してより詳細な話し合いを行っている。他の場面で同様の状況や子どもの発達から想定される事態、映像から想起された各職員の日頃感じた危険など、組織的に気づきや知見を共有し、日頃の行動として実行可能な未然防止策についても話し合うなど、実践に根差した視点で各職員のリスクセンスを高め、安全の確保・向上につなげる取組を行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	日頃の保育の可視化や行事後の姿の共有など、保護者との共通認識を深めている	
内容③	懇談会では写真や動画などで伝わりやすい工夫しながら、子どもたちの一年間の成長・発達を伝えたり、進級・進学に向けた内容や環境変化などを説明している。またクラス便りでは子どもたちの活動や関わりなどを写真とコメントで伝えたり、教具の紹介も行うほか、毎日及び行事後のフロアごとの便りも発行し、写真による可視化によって日頃の活動の様子や子どもの姿が保護者に伝わりやすいよう配慮している。園での子どもの姿が見たい時にはいつでも受け入れるなど、積極的な情報提供と園生活や保育の透明性の確保にも努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちが自信を持って主体的に活動できるよう、日々のさまざまな場面で、保育士は目を合わせ「誉める」ことに注力している
	内容	保育室や園庭は、興味あるものに主体的に取り組める環境となっており、自由な遊びが保障されている。また集団で行うオペレッタや食育活動においても個々の気づきを大切にしているほか、散歩の行き先を子どもと考え、子どもの声に耳を傾けられるよう少人数で出かけている。「フェスティバル(発表会)」では、フラフープや絵など自分の好きなことを発表している。これらの主体的な活動は子どもの自信や肯定感に支えられており、子どもが安心して意欲を高められるよう、保育士は日々子どもの行為や気持ちを、目を合わせて「誉める」ことに努めている。
2	タイトル	子どもたちが認め合う雰囲気の中で生活や遊びをともにして育ち合い、人への関心を高め、互いを受け入れ合う心地よさに触れている
	内容	3歳以上児は異年齢で生活や遊びをともにしている。その中で困っている子どもの世話をしたり、年上児のまねをしながら、一生懸命に取り組む姿が見られるなど、自由な活動が許された保育環境の中で子どもたちが育ち合っている。園が実践する「誉める保育」では、保育士が子ども一人ひとりの行為・気持ち、そして存在自体を認め、感謝するという関わりに努めており、大人の姿を真似て年上児が自発的に年下児を誉める姿が見られている。これら異年齢の関わりと認め合いの中で人への関心を高め、受け入れ合う心地よさに触れている。
3	タイトル	多様な視点から気づきや改善点を見出し、そこから即時の対応に努め、より良い保育や運営へとつなげている
	内容	子どもへの最善の利益の保障に向け、多様な視点から気づきや改善点を見出し、そこから即時の対応に努め、より良い保育や運営へとつなげている。行事においては達成度を測る指標を定め、担当を中心に進捗管理と実施後の振り返り、次回への引き継ぎを行うほか、日常的な園長・主任・看護師等の気づきは職員会議や各フロアへの問いかけ、助言を行うなどし、職員も考え、検討していく風土と即時の改善の仕組みが培われている。これらによって子どもへの対応や保育の手法、行事や保護者対応などの具体的な改善事例へとつながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	市民への施設機能の還元や在園児の活動の充実など、園としての地域へのアプローチをさらに活性化させることを課題としている
	内容	保育所の社会的機能の一つとして期待される地域への専門性の還元については、現状では見学者への相談対応程度にとどまっている。人員体制の整備や地域に門戸を開くことによる防犯面のリスクへの対応、ニーズに応えるための子育て等に関するノウハウの蓄積など、実施に向けた課題をクリアしながら、中・長期的な観点で具体的な取組を検討する意向であり、今後の進展が期待される。また在園児の地域との関わりについても、同市内の系列園との交流をはじめ、周辺の資源を活用した充実を模索しており、併せて今後の検討と実践を期待したい。
2	タイトル	保護者の理解を深める継続的な取組や周知の工夫等が、子ども・保護者の安心感のさらなる向上をもたらすことを期待したい
	内容	子どもが安心してともに、保護者も同じく安心できるよう、積極的な声かけや情報発信に努めている。日頃の保育や子どもの姿の写真等を用いた可視化にも取り組む中で、新保育指針や園の目指す保育のあり方などについて、保護者との理解をさらに深めることに課題が認識されているほか、それらの一環として日頃の保育を見てもらえる機会などの保護者の参加促進についても、周知の工夫や仕組みの強化を図りたいと考えている。保護者との相互理解を深めるためのこれらの継続的な検討と取組が、子ども・保護者の安心感の向上に寄与することを期待したい。
3	タイトル	近未来の目指す園の姿やそのための課題や目標を組織内で共有し、計画的に取り組むための仕組みの確立が期待される
	内容	上記に加え、保育や人材育成の根幹とする「誉める保育」の組織的な理解の促進や、それを含めた組織の中核を担う若手職員の資質向上を課題としている。また職員が育ちつつある中で、職員・クラス間の連携や意思疎通をより密にし、相互理解を深めることや、成長の源泉の一つとなる各人のキャリアアップ意欲を高めることなども重要であると考えている。これらを中心に、理念実現の一過程として数年後の目指す園の姿を明確にし、そのための課題や目標とともに組織内で共有するとともに、その解決や達成に計画的に取り組むための仕組みの確立が期待される。